

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道202号 <small>いまり</small> 伊万里バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自： <small>さがけんいまりしおおつぼちょう</small> 佐賀県伊万里市大坪町 至： <small>さがけんいまりしおおつぼちょう</small> 佐賀県伊万里市大坪町				延長	1.0 km
事業概要	国道202号伊万里バイパスは、伊万里市中心部市街地へ至る現道の交通混雑を緩和するとともに良好な沿道環境の確保を図り、地域の活性化に大きく寄与することを目的とした事業である。					
H11事業化	H13用地着手		H18工事着手			
全体事業費	26億円		事業進捗率	約67%	供用済延長	0 km
計画交通量	8,500台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 4.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 6.5/29億円 事業費：4.5/27億円 維持管理費：2.0/2.0億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 30/30億円 走行時間短縮便益：28/28億円 走行経費減少便益：1.8/1.8億円 交通事故減少便益：0.77/0.77億円	基準年 平成20年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=5.1(交通量+10%)、B/C=4.2(交通量-10%) 事業費変動：B/C=4.3(事業費+10%)、B/C=5.0(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=4.5(事業期間+20%)、B/C=4.9(事業期間-20%)					
事業の効果等	・円滑なモビリティの確保（事業周辺で渋滞損失時間の削減が見込まれる。） ・安全な生活環境の確保（歩道整備による安全性の向上が期待される。） ・地球環境の保全（CO2排出削減量：159t/年） 他5項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	地元の伊万里市大坪町白野地区からは、早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	七ツ島工業団地、伊万里団地等工業団地への立地が増加し、製造品出荷額が増加している。それと同時に伊万里市への周辺市町村（唐津、有田、武雄等）からの通勤通学者は増加している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成19年度末の事業進捗は、事業費ベースで約67%であり、そのうち用地進捗率は約77%に達している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業効果を早期発現できるよう、引き続き用地買収を促進し、工事等の事業進捗を図っていく。					
施設の構造や工法の変更等	事業実施にあたっては、新技術・新工法の積極的活用、建設副産物対策により、着実なコスト縮減を図るとともに、早期供用による事業実施の時間的コストの低減に向け、計画的・重点的な整備により効率性の向上を図る。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。